



グリーンフィールド開拓(GFD)作戦

飯田ケーブルテレビ(ictv) 上野原ブロードバンドコミュニケーションズ(UBC) 石垣ケーブルテレビ(ICT)

NTT光卸の自由化にもはや反対するケーブル事業者はいまい。2014年末にはケーブル業界あげての反対署名運動があった。現在はその不屈な熱気は消え去っている。2015年にケーブル事業が還暦を迎え、業界あげての〈Beyond60〉(還暦後の事業展開)の模索が始まった。その一つの選択肢が、FMCのVNO化によるエリア拡大、加入者拡大策だった。つまりFMCの自前網に他人網を加えて、空白地帯の開拓(GFD)を推進する作戦が盛んに模索

されるようになった。本号ではGFDの3つの典型事例を紹介することにした。大胆なNTT光網を利用した飯田ケーブルテレビ(ictv)の全面光化作戦をまずご紹介する。次に、創業時から上野原市が所有する光網を利用したVNOの嚆矢局である上野原ブロードバンドコミュニケーションズ(UBC)の周辺部のGFD作戦の事例。そして、インフラ100%敷設の好条件を活用した石垣ケーブルテレビ(ICT)の〈風神雷神社〉建立作戦の最新情報をまとめた。(構成:天野昭)

飯田ケーブルテレビ(ictv)

5年以内に NTT東日本のVNOで 全面光化

飯田ケーブルテレビ(長野県飯田市／原勉社長)は2016年5月16日に創業30周年を迎えた。現在のサービスエリアの対象世帯は約3万。そのうち、1万9000世帯が加入者世帯数だ。エリア内にも約3割の未加入世帯を抱えている。さらに将来的には周辺部へもサービス拡大を図りたい。そこで、ictvの原社長は思い切りのいいVNO作戦展開を宣言した。対象エリアを6万に広げ、5年以内にNTT光で全面光化を果たそうというのである。2016年4月27日にそのセレモニーが地元で開催された。ictvの大胆不敵なVNO作戦、GFD作戦の勝算を幹部に聞いた。(構成:天野昭／資料提供:ictv)



全国初のNTTとの提携による全面光化プロジェクト発足の記者会見に臨むictvとNTT東日本の幹部



「光キャストビジョン」牽引車の原社長と中澤達也・ictv取締役営業部長



絶大なる協力者はなんといても「飯田市」だ。その先頭に立つ飯田市の佐藤副市長(セレモニー会場にて)